

わが人生観17 小泉信三

1970年7月30日 初版発行・

著 者 小 泉 信 三

発行者 大 和 岩 雄

発行所 ^{だい} ^わ 大 和 書 房

東京都文京区関口1の33

振 替 東 京 6 4 2 2 7

電 話 (203) 4 5 1 1 ~ 4

郵 便 番 号 1 1 2

製版・印刷・信毎書籍印刷 製本・美成社

1395-040170-4406

<検印略>©1970

わが人生観¹⁷

小 泉 信 三



大和書房



昭和36年初夏

軽井沢万平ホテルにて

東京新聞提供

黄昏、微風
燈影、花香

こんな気分が
好きです

信三

目 次

平生の心がけ

イエス、ノオ

決議の尊重

人の幸福

己れの欲せざるところ

人に施すことなかれ

野暮

論争と勝名乗り

電話

晴天の友

善を行う智

亡友の遺児等

言論者の成年と未成年

練習

続き

恕

弁解

15 16 17 18 19 20 21 22 24 24 25 26 29 31 34

目 次

生意気	35
続き	38
人の噂	41
スタンドブレイ	44
続き	46
知識と智慧	48
池田成彬	50
ジョナサン・スウィフト	53
小さい事	54
もうひとつ	56
鷗外の「智慧袋」	57
鷗外の「心頭語」	62
残忍	66
老年と青年	69
病めるもの、貧しきもの	71
続き	74
デリカシイ	76

風俗叱正

燈台守り

「信なきものは去る」

社用族

発音の美

言語の正確

抵抗の精神

五十歩百歩

畏怖と自由

人工的インスピレーション

演説

病氣見舞

わが振り人の振り

強いものには強く、弱いもの

には優しく

河流

徳教は目より入り、耳より

131

124

120

119

116

111

105

103

99

94

92

86

84

81

78

入る

凡べて人に為られんと思う

ことは人にもその如くせよ

「チームワーク」について

清潔教育

少年と英雄

理非を正すこと

135

137

140

143

147

老健のいろいろ

四季、朝夕

人生と忠

人生と練習

国土の姿

忠（ロヤルティ）

解説

——信義を培う硬骨の論理——

富田正文

年譜

190 186

197

203

208

215

222

装幀 上口睦人

わが人生觀
17

自由と信義

平生の心がけ

時刻を堅く守ることは、一般的に約束を堅く守ることの一種に外ならぬ。……時刻の厳守が、練習によつて高められるとすれば、一般的に約束の厳守も、また練習によつて高められなければならないのである。……約束を守ることは、信義を守ることである。信義を守るといふ大切なことが、練習によつて左右され得るとしたら、これを練習しないといふほど愚かな、無慾なことではない。

平生の心がけ

平常心づいていることを、二三、思い出すままに左に記す。

イエス、ノオ

イエス、ノオは、はっきりいって、人に迷惑をかけないようにしたいものである。妙な話だが、^だ諾否の明言は、むしろ徳義の問題であると同時に、また練習の問題でもあるように思う。水泳の飛び込みや野球の滑り込みを、躊躇^{ちゅうちよ}しながら、ぐずぐず試みると、よく怪我^{けが}をする。思い切って敢行すると、存外安全に成功する。イエス、ノオの言明にも、ややこれと似た趣きがあるようである。人の気をかねて暖昧^{あいまい}なことをいうものが、存外よく思われず、かえって他の思惑^{おもわく}を顧みずに、思った通りいうものが、必ずしも嫌われない。人の気ばかりかねて、左右を見廻していることが、存外引き合わないものだといふことは、知っていて損のない話である。

飛び込みや滑り込みと同様、諾否の明言も、心がけと練習により、上達するものだといえると思う。